

平成27年度部長マニフェスト取組結果

部局名	人権文化部
部局長名	小西 義人

【達成度について】

- A：達成（設定した目標を達成することができた。）
- B：一部達成（設定した目標の一部のみ達成することができた。）
- C：未達成（目標達成に向け取り組んだものの、目標達成にはいたらなかった。）

重点課題 4 DV防止対策事業の推進

全体の達成度
A
達成

めざすべき方向	一人ひとりの人権が尊重され、暴力によらない対等な人間関係を構築できるよう、総合的な施策を積極的に推進し、暴力を許さない社会の実現を目指します。
---------	---

活動目標
DV防止基本計画に基づき、吹田市DV防止ネットワーク会議により関係機関・部署と連携を図りながら総合的なDV防止対策事業を推進し、すいたストップDVステーション（DV相談室）の充実を図ります。
Wリボンプロジェクトの周知を図り、ダブルリボンプロジェクト基金の健全な運用を目指します。

具体的な取組実績
「予防」は、デートDV予防啓発事業やWリボンプロジェクトinすいた2015などの啓発、「発見」「支援」は、重層的な課題を抱えるDV被害者を支援するため、関係機関・部署と連携した直接支援、「フォロー」は、DV被害者自立支援事業やDV母子訪問傾聴事業など、多彩な事業を展開しています。 また、吹田警察、大阪府女性センター、保健所などの外部機関や、庁内関係部署で構成する吹田市DV防止ネットワーク会議を代表者会を5月、実務担当者会議を7月、2月に開催しました。
11月を運動月間に、Wリボンプロジェクトinすいた2015として、各種講座の開催、万博記念競技場でのガンバ大阪とのコラボ、Wリボンオフィスの製作などを実施しました。また、Wリボンバッジの販売、事業者と連携したWリボンポロシャツや、ボールペンなどのグッズでの啓発などにより趣旨を普及しています。さらに「フォロー」事業として暴力から離脱した被害者宅を訪問し、傾聴する事業を実施しました。さらにWリボンプロジェクトの財源であるダブルリボンプロジェクト基金への協賛を事業者・団体等に働きかけています。

達成目標
「予防」「発見」「支援」「フォロー」の4つのステージ毎に効果的な事業の推進を図ります。
DV、児童虐待など、「暴力のない安心安全のまち、すいたの実現をめざし、「Wリボンプロジェクト」を推進します。

達成状況	達成度
平成27年度のDV相談件数は524件であり、初年度の23年度203件に比べ大幅に増加しています。デートDV予防啓発事業は、大学生のユースリーダーを新たに6人養成し、5中学校で出前授業を実施し、計729人の中学生が暴力について学習しました。DV被害者自立支援事業は、被害者のグループワークに延7人が参加し、心のケアを行いました。	A 達成
ダブルリボンプロジェクト基金指定寄付金1,986千円、Wリボンバッジの売り上げ金の一部285千円、預金利子3千円の合計2,274千円を基金に積立てました。基金を財源とし、暴力から離脱した被害者の心のケアのため、DV被害者母子訪問傾聴事業を実施しました。様々な取り組みを実施する中で、Wリボンプロジェクトの理解が広がっています。	A 達成

総合評価・総括
平成23年（2011年）4月に開設した「すいたストップDVステーション（DV相談室）」では、DVを予防、発見、支援、フォローという4つのステージで捉え、それぞれのステージで効果的な施策を推進していく総合的なDV防止対策事業を行っています。同ステーションの相談件数は、平成23年度203件、24年度306件、25年度347件、26年度446件、27年度524件と年々増加しています。 またデートDV予防啓発や避難後の自立支援、DVネットワーク会議の構築など、取組は拡充していますが、就労支援やシェルターの問題など、課題は山積しており、限られた体制の中で効果的な施策を推進していくことが求められます。 また、DVと児童虐待は密接に関連しており、一体として対策を講じなくてはならないという思いから実施している「Wリボンプロジェクト」では、Wリボンバッジが累計約10,000個が売れ、「ダブルリボンプロジェクト基金」には指定寄付金など2,274千円を積み立てました。今後も「Wリボンプロジェクト」をさらに発展させ、「暴力のない安心安全のまち、すいた」の実現を目指します。